新幹線プレス

2012年4月21日	No.41
発行者	成　田　隆　浩
編集者	教　宣　部
ＪＲ東海労新幹線地本	

経営協議会シリーズ３

「業務の本質」とは何か!?

マニュアル偏向体質を自覚し正すべき!!

新幹線鉄道事業本部の「平成２４年度実行計画」では「運転事故防止対策については、昨年度の反省を踏まえ、規程類や基本動作のみならず、設備の構造や作業の目的も含め、これらの本質的意味を理解し、自立的に考え、行動する意識を高める取り組みに一層注力していく。」となっています。

これは、２年前から吉川本部長が提唱している「業務の本質をとらえた仕事で『より質の高い新幹線』を提供」という基本戦略を継承・発展させるものと受取れます。

しかし、実際には職場では全く違った現象が現れています。管理者は「本質をとらえる」というより枝葉末節にとらわれた指導になっているといわざるを得ません。

マニュアルにある言葉通りでなければ、意味合いが同じでも「マニュアルにはこう書いてあります。」と、マニュアル偏向の指導ならざる指導になっています。

これでは、社員の行動する意識を高めることはできません。

管理者の意識向上こそが問われている!!

管理者が本質を理解していないから偏向が発生するのだ!!

何故、マニュアル偏向の指導がなされているのでしょうか。それは、管理者自信がマニュアルの本質を理解していないからだと言わなければなりません。

社員が、マニュアルを体に覚えさせて喚呼しているのを横目に管理者はマニュアルとにらめっこをしてをなぞっているだけだから語句の違いを指摘することになります。

仕事の流れ、安全確保のために必要なポイントを理解していないから、タイミングなどお構いなしに、運転整備や運転中、あるいは検査業務の妨げになりかねない「指導ならざる指導」をしてくることになっています。

経営協議会では、組合側からこのことを指摘し、「管理者の教育」している管理者に対して事故対策教育が必要であることを指摘しました。

管理者の誤った指導や指摘については糺す取り組みを強化します!